

KOBE YMCA NEWS



神戸青年

No.631

2014.7・8 July・Aug

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
(テサロニケ信徒への手紙 一 5:16~18)

定期総会開催

神戸キリスト教青年会の定期総会が5月30日(木)午後6時30分から開催されました。

相浦和生牧師(日本キリスト教団)による礼拝でのメッセージは、「主がおっしゃったことが必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです」という聖書の御言葉に心を寄せました。その後の総会では、役員改選が行なわれ、以下の方々が役員(任期2014年6月から2016年5月)に選任されました。(50音順。再任含む。敬称略)

- 常議員** 阿部 俊、石井恭子、上杉 徹、
 鶴丹谷剛、太西裕二、大野 勉、
 岡田佑一郎、小澤昌甲、尾上尚司、
 川崎孝子、清水泰人、長井慎吾、
 中尾秀一、中道基夫、馬場一郎、
 馬場貴英、濱 浩一、廣瀬一雄、
 廣瀬頼子、藤井久子、古澤啓太、
 美崎 晋、水野雄二、森 恭子、
 安行英文、山口 宰、吉田昌義

監事 鈴木博和、柳谷利起、山本常雄

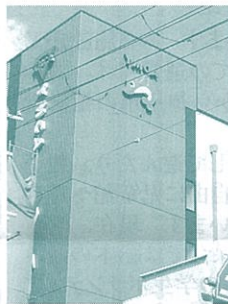
総会では、ボランティア奨励賞の発表が行われ、YMCAが多くのボランティアによって運動を広められていることを改めて感じる時となりました。新たな一年も皆様とともに、力強く歩んでまいりたいと思います。

(ボランティア奨励賞の受賞者詳細は4面)

ファミリーウエルネスセンター間もなくオープン!

2014年9月1日(月) オープンの神戸YMCAファミリーウエルネスセンターですが、外壁の工事が終わりつつあります。いよいよ、『YMCA』の文字が現れてきました。青い字で描かれた『YMCA』の文字が、白い壁にとっても映えます。現在は、建物内部の工事が進んでいます。あわせて地域の方々の期待も日に日に大きくなっています。

ファミリーウエルネスセンターでは、多くの人が集い、交わりを楽しめるような様々なプログラムを行います。プールは、25m×5コース(1コース2m幅)。泳ぐだけでなく、歩くコースを設けます。泳ぐ場所から、歩く場所へ変わりつつある最近のプール事情ですが、バランスよくひとり一人が運動すること(健康を推進すること)を楽しめるようにしていきます。また、三宮・学園都市の両ウエルネスセンターで、会員のみならずと一緒を守り続けてきた水質にはこだわります。透明度の高いプールは、気持ちが良いですし、何よりも安全が保たれます。フロアーでは、広いスタジオではみんなで楽しみ、運動強度の低いものから高いものまで種類を増やすことにより、多くの方々が楽しめるようにしていきます。マシンジムの中には、ファンクショナルトレーニングゾーンを設けました。単に、筋力をつけるだけでなく、身体の運動機能を整えて怪我の予防につながるトレーニングも行っています。子どもたちの活動は、水泳や体育活動を変わずに行いながら、より親子や未就園の子どもたちに対するプログラムを増やしています。子どもたちの育ちがより良く進むよう、お母さんたちへのアプローチも行います。児童発達支援『タンポポくらぶ』や高齢者事業も新たなチャレンジをしていきます。福祉とウエルネスを融合させ、多世代、多文化の共生をYMCAから地域へ発信できる日が近づいています。



三宮会館感謝礼拝

日時: 8月2日(土) 13:30~14:30

場所: 神戸YMCA三宮会館チャペル

奨励: 日本キリスト教団神戸教会 菅根信彦牧師

三宮会館ありがとうパーティー

これまで三宮会館に関してこられた方、誰でも参加可能です。みんなで思い出話に花を咲かせませんか?

主催: クラブ幹事会 日時: 7月26日(土) 15:00~19:00 場所: 三宮会館1階ロビー

未来への提言

私にとって、神戸YMCAは特別な存在です。今年はずいぶん、神戸YMCAと出会って、20年になります。

私は、中国上海の出身です。小さい頃から学校で無神論の教育を受けたので、自分の力を頼りにして、努力すれば、きっと報われると信じていました。高校卒業して、自分は留学することを決心しました。留学の計画から実現まで、非常に順調でした。1994年の秋、期待に胸をはずませて、故郷を離れ、神戸YMCA学院専門学校日本語学科に留学しました。しかし、神戸に来てから、現実の生活と直面した時、期待はずしく感じました。言葉が分からない、人々との交流が難しい、テレビをつけても内容が分からない、非常に寂しく感じました。そして、日本の物価の高さもびっくりしました。長田から三宮までの電車賃で中国だとコーヒー付きケーキセットを食べることができました。お金の問題を解決するため、アルバイトを始めた。確かにアルバイトをすればするほど、勉強の時間が少なくなり、日本語の上達が止まってしまいました。心身とも疲れて、日本への留学の道は自分にとって、ふさわしかったかどうか、自分の計画は正しかったかどうか、何回も疑って、一時留学をやめようとも考えました。

このような悩みのもと、神戸での留学生活が二ヶ月経ちました。ちょうどその1月、阪神淡路大震災が発生しました。私が住んでいた長田区のアパートが全壊し、部屋から逃げ出した時、あわてて一つの鞆を持ち出しました。開けて見たら、鞆の中に神戸YMCAから配られた一冊の聖書以外、他に何も入っていませんでした。この一つの鞆、一冊の聖書は、私の唯一の財産となりました。これからの道を歩むか、どう生活するのか、頭の中は真っ白でしたが、避難所で聖書を開いて、読み始めました。一度その神を信じてみよう、その神が私の歩むべき道、一歩一歩を備えてくださると信じてみようという決心をしました。

震災の後、神戸YMCAの日本語の先生方や職員の方々の温かい励ましと支援によって、勉強が続けられたと同時に、教会に通い、洗礼も受けました。ついには、自分にも信じられないことですが、教会の牧師として、10年間を務めることになりました。まさに箴言16章9節に語られているように、「人間の心は自分の道を計画する。しかし、主が一歩一歩を備えてくださる」。

日本の留学生生活を振り返ってみると、神戸YMCAでの大切な経験は、本当に主の導きだと思っています。これから、皆さんもYMCAとの繋がりをもちながら、様々な経験を通して、更なる豊かな人生を送れると信じています。

福岡女学院大学 徐 亦 猛

ホテル学科50周年に寄せて⑥

クラス in Hotel



神戸YMCA学院専門学校は、2014年4月に、新幹線新神戸駅まで徒歩5分、神戸市営地下鉄新神戸駅まで徒歩1分という、交通の便が非常にいい新神戸オリエンタルアベニュー2階に第一次校地移転をしました。

新神戸オリエンタルアベニューの上には、神戸のランドマークともいえるANAクラウンプラザホテル神戸があります。将来ホテリエ（ホテルで働く方々の総称）をめざすホテル学科生にとっては、すぐそばに憧れのプロフェッショナルがおられる理想のロケーションといえることができます。

神戸YMCA学院専門学校ホテル学科は、ANAクラウンプラザホテル神戸のご協力により、客室や宴会場、バックルームなどを充分に使わせていただき、本物の施設の中で緊張感を持ち、ホスピタリティと即戦力を学ぶ「クラス in Hotel」をスタートさせています。



ソムリエの方によるワインの栓の開け方やアルコール類のお話、宴会場担当の方からのレストランサービスの基礎などの講義をしていただいています。

これからも神戸YMCA学院専門学校ホテル学科は、他のホテル学校とは違う特色を持って進んでいきます。

学童保育



太山寺児童館

神戸YMCAでは、学童保育事業を6つの場所で行っています。内2施設がYMCAによる地域方式での運営、4施設が指定管理者としての運営です。太山寺児童館は学園都市のYMCA保育園の前にあり、9年前から神戸市の指定管理者として委託運営しています。

児童館での1日は、午前中に乳幼児の親子が自由に来館して遊んだり、親子教室を行ったりしています。午後からは学童保育の小学生と自由に児童館へ遊びに来る子どもたちが同じスペースでいつも賑やかに過ごしています。現在、学童保育には78人の小学生が登録しています。児童館での学童保育では絵本の読み聞かせボランティア、昔あそびのボランティア、近隣大学からの学生ボランティアなど多くの方が子どもたちの成長のために関わってくださっています。先日、いつも昔あそび教室に来てくださっているボランティアの方から嬉しい言葉をいただきました。その方は、昔あそびボランティアとして来ていただいて3年目になりました。最近になり、登校時に子どもたちが「昔あそびのおじさんや！」と気づいて挨拶をするようになり嬉しいと言われていました。また、昔あそびを始めた頃やんちゃだった男の子が3年後地域の方に銭太鼓を発表した時、センターでみんなを引っ張っている姿を見て感激したと仰っていただきました。子どもたちも地域の方と遊ぶのを楽しみにしています。学校から帰って来たら「今日はだれが来るの?」と嬉しそうに聞いてきます。地域の方が続けて、子どもたちと関わってくださり一緒に彼らの成長を喜ぶことができ私たちが本当に嬉しく思います。今後も地域の大人が地域の子どもの成長を共に見守っていける学童保育を目指していきたいです。



保育園



保育園・保育所のこと、実際に子どもを預けていない方はよく知らない方も多いのではないのでしょうか？ 保育園は、働いている保護者のお子さんのためだけの場所ではありません。地域の子育て支援の拠点として様々な活動を行っています。西宮YMCA保育園では、子育て支援として、毎週2日親子連れ向けの園庭開放を行ったり、季節ごとに地域の乳幼児期の親子対象のプログラム、また5月から7月には5回シリーズで2歳児親子が集う「Yわい広場」など、地域の子育て応援の活動を行っています。保育園に通っている子どもではなくとも、久しぶりに町で小さいときに園庭開放やプログラムに参加していた親子に会釈される時、久々に会うお子さんは一回りも二回りも大きくなっていて、成長の喜びを覚えます。西宮YMCA保育園は、住宅地の中にある小さな保育園ですが、学校や学童保育との繋がりを大切に開かれた保育園となるよう歩んでいます。きっとみなさんの町にもいろんな保育園がそんな活動をしているのでは？ 子育てを一人ではなく、地域のいろいろなつながりの中に入れていけばまた世界が広がるでしょう。YMCAでも、会館での活動、保育園、幼稚園、児童館など様々な形で地域の子育て支援を行っています。多くの方との繋がりで、多くのいのちが光り輝く活動になっていくように願っています。



I'm a Partner



パートナーの集い2014 —ご報告—

去る5月31日、福島の子どもを招待して行う I'm a Partner Camp に関わる「パートナーの集い」が開催されました。今回は、神戸YMCAボランティア奨励賞を受賞した伊藤峻さん（福島大学）を招き、「福島からの声～大学生が語る福島の今」と題して、お話をさせていただきました。伊藤さんから冒頭、「これから、『私』が思う福島の今、を語りしたいと思います。美味しんぼの問題もあります。色々な人が、色々なことを言います。だから、私が言っていることはすべてでない。それをご理解いただきたい」とお話がありました。この言葉から福島の現状、彼が負う重圧を感じました。

お話は「『自然との共存』とは何か。今だから疑問に思う」という投げかけや、人口の流出が激しい地域、そこの公園は閑散としていて、人影が少ない。といった「今の福島」が伝えられました。「原子力発電に賛成か、反対か、それとも無関心なのか。」という質問には、参加者からも様々な意見が飛び交いました。中でも、「反対か、賛成か。の議論の前に、もう既に何十機もの原発が存在する。それをどうやって管理していくのか。稼働しなくても、原発が無くなった訳ではない。」との意見に、議論が熱くなりました。福島だけの問題ではなく、私たち一人ひとりが、この問題について考え議論していくことが必要なのだと感じました。その後、4～5人に分かれてのグループディスカッションの時間となりました。高校生、大学生、社会人と様々な立場の、またキャンプカウンセラー、プログラムボランティア、ファシリテーターボランティア、寄附者、そしてこれからパートナーになるために初めて参加した方々、という違った役割の人々が、一つの方向を向き、議論を深める。この多様性に満ちた空間は、とても素晴らしいものでした。伊藤さんの言葉の通り「これは福島の復興だけではなく、日本の復興でもあると思う。これからは皆さんと一緒に未来を創っていきたい。」という時なのだと感じました。

最後に、今井誠幸さん、麻里さんご夫妻が撮影・編集をしてくださった「春のパートナーキャンプムービー」を鑑賞し、閉会しました。散会后、参加者のお一人から「今日は本当に良かった。心が震えました！」と感想をいただきました。きっとこの想いは、これからの未来へと繋がっていくのだと思います。そして必要とされている人のもとへ、このパートナーの輪が広がっていくことを願っています。

神戸YMCA 阪田晃一

幼稚園



幼稚園では2014年度がはじまり313名の子どもたちが園生活を過ごしています。今年度は131名の新入園児を迎えました。入園前健診では保護者から離れられず泣いていた新入園児がひとりでバスに乗車し手を振る姿に逆に保護者の方々が泣きそうになっています。が、子どもたちはお母さんの不安をよそに、戸惑いながらも大胆に遊んでいます。何度も水を汲み、よろめき、びしょ濡れになりながら砂場までバケツを運ぶ姿は愛らしく、毎日全身着替えて帰る子どもたちは満足そうです。お家の人に「お洗濯お願いします。」と声をかけるのもほとんど毎日です。でも、ある時期から「あれ?」「全身濡れている子どもがいない」「スコップもバケツも独り占めしていない」「タイヤぶらんこを順番に待っている」子どもたちに出会います。家族を離れて初めて出会う「社会」が幼稚園の3歳児は集団生活の中で少しずつルールを学んでいます。大人から言葉で教えられるより、経験を重ねながら自ら学んでいく姿に子どもが持っているひとりひとりの力を感じます。友だち同士で遊ぶよりまだひとり遊びが見られる新学期ですが、神さまの見守りに感謝しながら共に幼稚園生活を楽しみたいと思います。



感謝・寄付

国際協力募金

「阪神地区諸教会イースター
早天祈祷会実行委員会」

チャリティゴルフ

大会名…第30回神戸YMCA

チャリティゴルフ大会

日程…5月21日(水)

場所…千刈カンツリー倶楽部

協力者…41名(今回は紙面の都合上、協力者のお名前を省略させていただきます。ご了承ください。)

収益金額…約225,000円

子ども奨学金として(金額)…

22,117円

2013年度YMCA国際協力募金へのご協力をありがとうございました。

【支出】		【収入】	
日本YMCA同盟拠出金	400,000	一般募金	2,630,155
タイワークキャンプ及びユースボランティア・チェンマイ派遣	タイ情勢不安定により中止	指定募金	752,787
定住外国人子ども奨学金	180,000	計	3,382,942
国際活動リーダーシップ養成	498,341		
神戸YMCA国際奨学金	240,000		
オリーブの木・パレスチナ難民支援	68,000		
フィリピン台風支援	748,963		
伊豆大島台風支援	50,000		
2014年度緊急時支援金	145,267		
CODE・PHD協会支援	200,000		
開発・国際理解教育	162,371		
チェンジ・エージェント(世界YMCA同盟)支援	350,000		
事務局経費	340,000		
計	3,382,942		



2013年度神戸YMCA東日本大震災復興支援募金へのご協力をありがとうございました。

(2013年度2月末現在、2010年度(震災発生直後)～2012年度分を含みません)

【支出】		【収入】	
日本YMCA同盟拠出金	500,000	一般・指定募金	6,144,089
被災児童支援制度	2,701,581	海外から	102,743
福島の子ども招待キャンプ	3,803,641	計	6,246,832
被災避難ファミリープログラム	397,646		
広報活動費	544,750		
事務局経費	10,000		
計	7,957,618		

ワールドチャレンジ 2014

現在、世界のYMCA会員数は、約5,800万人。そのうち「ユース」年代の会員数は、約2,800万人と約半数を占める。そんな状況にある今日のYMCAでは、「Youth empowerment」(ユースエンパワーメント)、つまり若者がリーダーシップを強め、それを発揮することのできる環境づくりをしていくこと、チェンジエージェントとして育っていくこと、それが世界のYMCAに共通する目標です。そして、今年度、創立170周年を迎えるYMCAのワールドチャレンジ2014のテーマは、「I stand up for young people and their voice to be heard.」で、世界YMCA同盟の発信の下、各YMCAにて取り組みがなされています。



神戸YMCAでは、約90名の若者たちが参加したボランティアリーダートレーニング・委嘱式にて、中道基夫理事長による「YMCAの使命を担うリーダー」というテーマでの基調講演をふまえ、YMCAは何

なのか? YMCAの価値は? 大切にすることは誰か?を話し合いました。ワールドチャレンジのテーマである「今、若者のために立ち上がり、その声が届くために」ということにつながるよう、YMCAボランティア活動において私たちに何ができるか、今後の方向性を考える機会を持ちました。また、ワールドチャレンジ2014にて、世界のYMCAが共通で取り組んでいる動画を撮影しました。神戸YMCAに集う若いリーダーたちの溢れる思いと願い、そして明るく前を向き、他者とともに生きる姿を見ることが出来ます。下記URLにて是非、ご覧いただくと幸いです。

西神戸ランチ 坂本 孝司

URL:http://youtu.be/_E0-wbldGWQ

ソナタ 奏鳴曲 No.64



総主事 水野雄二

「失敗を授かる」ということ

「失敗」という言葉を考えていた時、ふと青年時代に聴いた「ぼくたちの失敗」という唄を思い出しました。森田童子というシンガーソングライターが恋愛の失敗を歌った淡々とした、しかし甘酸っぱい唄でした。失敗とはそのように悲しく、悔しく、切ないもので、できれば味わいたくない経験ですが、私たちの日常にはちっちゃな「成功」と小さいけれど大きく感じてしまう「失敗」が繰り返し混在して悲喜こもごもの生活を送っています。

私は神戸YMCA総主事に就任して13年目を迎えますが、これまで数多の失敗をして皆様にご迷惑をお掛けしたのではないかと思っています。反省しきりです。しかし、個人的には多くの失敗の経験を通して大きな学びを得て、成長させていただいたのだと感謝するものです。神戸YMCAとしてもまた、いくつものチャレンジをし、成功もあれば失敗もありました。その度に会員やボランティア、また地域の皆さんが支えてくださって128年を迎えることができました。

ニューヨーク大学の研究所の壁に架けられていると言う有名な詩の一部にこのような言葉があります。

「(前略)世の人々の賞賛を得ようとして成功を求めたのに得意にならないようにと 失敗を授かった (後略)」

私たちの意図としては成功を求めて様々な行動をするわけですが、時にはそれが「失敗」という形で終わります。しかし、それは神の意図として「得意にならないように」と謙虚な生き方を学ぶ機会にせよ、ということではないでしょうか。

まもなく、子どもたちの歓声が海山に響き渡る夏を迎えます。今年も多くの子どもたちがYMCAのキャンプに参加します。それは子どもたちにとっては、大きなチャレンジでしょう。チャレンジはいつも成功するとは限りません。失敗の体験こそ、子どもたちを大きく育てるのだと思います。森田童子のほろ苦いメロディーが今も私の頭を巡りますが、子どもたちには是非、ほろ苦い体験も貴重なものとして味わってほしいものです。

5月12日～18日、アジア太平洋YMCA同盟主催「インターナショナル・ユース・ワークキャンプ」が開催されました。今回はこれまでのワークキャンプとは異なり、被災支援ワークキャンプとして実施されました。昨年11月8日にフィリピンを襲った台風は甚大な被害をもたらしました。多くの島が台風の被害を受け、小さな島々が地では大きな被害の痕を見ることが出来ます。

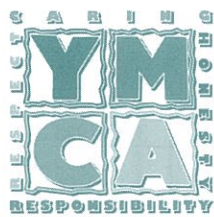
今回、フィリピン中部のパナイ島(首都マニラから飛行機で約1時間)、イロイロYMCAが被災地復興支援活動を行っているイロイロ州コンセプション市タンバリザ村で、ワークキャンプが行われ、開催国であるフィリピンに加えて、日本を含んだ8カ国48名の参加がありました。タンバリザ村のある島へはバスで約2時間半、さらに船で1時間移動しました。近くにある島々に比べて少し大きく高い山があり、水が湧いています。ガスは全く木炭で、電気は村の自家発電機で利用時間に制限がありました。被災地ということではなく、もともと生活がとてシンプルな村でした。この村に台風が襲った時、多くの村人は、幼稚園、中学校などのコンクリートで造られた建物に避難しました。雨風が強く吹き荒れる中、家族を抱き合ひながら神様に祈り続け、と幾人もの村人が話をしてくれました。そして折りが届き、台風の風が止み、新しいいのちが与えられたと口々に告げる村人の顔には笑顔がありました。その笑顔の中で、人々の感謝の中で私たちのキャンプが続けられました。神戸市社会福祉協議会の「フィリピン台風災害緊急支援募金」は、このタンバリザ村の教育施設の補修や図書室再建など教育環境を向上するために用いられます。中高生600名、小学校低学年50名、幼稚園50名と多くの子どもたちが毎日通っています。島には港などなく、浅瀬に着けられた小型船から足を海につけて、そこから島内のバイク5台しか走らない幅2mに満たない舗装道路から建築資材が運び込まれます。人手が大変多く必要とされますが、子どもたちのために尽くされる姿が想像できます。キャンプ参加者はこのそれぞれの校舎でのペンキ塗り、壁面制作、机や椅子にやすり掛けをして色を付けました。気温35度もある中で作業は皆の協力なしでは出来ませんでした。



今回、受入れ先となったイロイロYMCAは、被災後もなくこの村での支援活動を開始しました。地域の人たちが中心となって取り組む生活再建への協力支援活動は、どの災害地にあるYMCAと同様に、地域の人たちとともに歩むものであります。フィリピン台風30号緊急支援募金は、神戸YMCAにも多くの募金が寄せられました。あらためて心よりお礼申しあげます。

国際・奉仕センター 永井道子

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
デイキャンプ&コミュニティーサービス(兼キャンプ事務局)	☎078 (241) 7216
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

神戸YMCAのキャンプは 夢がいっぱい!

～サマーキャンプ好評募集中!～

初めて見る山・川・海。キャンプでは毎日が発見の連続です。

YMCAキャンプでは子どもが自ら気づき、考え、行動することを大切にしています。

“自然”と“仲間”と“自分”のどれが一番ではなく、全てが神様から与えられた感謝すべき宝であり、共に歩むべき存在だということに気づくのもキャンプです。夏休み、ぜひ一緒に冒険へ出かけましょう!



創立記念日礼拝開催

創立128周年の記念日礼拝が5月8日(木)に開催され、110名の方が出席されました。

今年三宮会館最後の創立記念日礼拝ということもあり、前会長・理事長の武田寿子さんに奨励をお願いしました。「YMCAからの賜物 ～11年を振り返って～」という題でお話をいただきました。



2014年度 ボランティア奨励賞

中山豊美さん (よしましよ代表 余島野外活動センター)

余島センター開設以来、オーブクラブ会員として、毎年の利用をはじめ、寄附や寄贈を通して継続的な支援を続けてくださり、2010年には「我はふくろうプロジェクト」を提案し、「素晴らしい余島を永遠に」というスローガンの下、余島の永続的な価値を訴えられました。2013年からはファンドレイジングボランティアとして、余島応援団体「Ladies & Gentlemen よしましよ」を立ち上げ、その代表として、総勢100名を超える賛同者を集め、総額8,000,000円を超える寄付を募り、福島の子ども招待キャンプ「I'm a Partner Camp」の開催を成功に導かれました。

伊藤 峻さん (福島大学学生 東日本大震災復興支援タスク)

2012年夏「神戸YMCAサマーダイヤモンドキャンプ」に、福島からの子どもたちの引率を含め、ボランティアリーダーとして参加。その後、2013年春「神戸西ロータリークラブ招待キャンプ」にもリーダーとして参加され、続く夏のI'm a partner Campには自身の参加は叶わないものの、優れたボランティア(福島大学学生)を推薦し、神戸YMCAと福島をつなぐ懸け橋として活躍。2014年春のI'm a partner Campには自身3度目の参加を果たすとともに新たなボランティアの発掘に努められました。その行動や語りかけは、神戸在住のリーダーたちだけでなく、福島の子どもたちにとっても安心感を与え、希望を与えている。また福島県内でのYMCA運動(キャンプやデイキャンプなど)の可能性も模索し、支援者と同志を探す苦勞を続けておられます。

学園長寿会の皆さん (太山寺児童館)

学園長寿会の方々には2012年度より太山寺児童館での昔あそび教室(毎月第3火曜日3:30～4:30)にボランティアとして来ていただき子どもたちにコマ回しやけん玉などを楽しく教えてくださっています。2013年度は特に力を入れていただき、子どもたちの参加も年間を通して400名を超えました。いつも子どもたちをあたたかく見守っていただき、子どもたちにも大人気です。長寿会の方に昔あそび教室のボランティアとして来ていただいてから子どもたちの伝承遊びに対する興味も広がってきました。

杉岡祥行さん (ウエルネスセンター学園都市)

青成ブレイクパートナークラスを2年間毎週水曜日に担当くださり、担当日以外でも初心者・初級者のラケットボールメンバーの指導に当たってくださっています。三宮YMCAの初期メンバーでもあり、6月に行われる「三宮YMCAラケットボールお別れ会」も計画・運営を担ってくださっています。

有川智華さん (ウエルネスセンター学園都市)

ウエルネス(成人)のメンバーとして活動している中で、キッズダンスの存在を知り、2013年度よりキッズダンスのボランティアリーダーとして来ていただいています。大学の授業やサークル、ダンスのレッスンなど忙しい中、時間を作って来ていただいています。現役のダンサーでもあるので、踊る姿が子どもたちの目標となり、ダンスへの意識を高めてくれます。また、プログラムの中では、動きに慣れていないメンバーに個別でステップを教えたり、不安に感じている子に声をかけたり、様々な面で子どもたちをサポートをし、安心してレッスンに集中できる環境づくりに貢献をしてくださっています。

東日本大震災復興支援活動 リフレッシュファミリーキャンプ

6月14日(土)～15日(日)、被災家族対象のリフレッシュファミリーキャンプを伊丹市野外活動センターで行いました。とてもいい天気、着いてすぐに子どもたちは芝生広場で走りまわり、大人も子どもも一緒になって草笛に挑戦しました。野外料理では、子どもたちは手に持ちきれないぐらいの枝を集め、お母さん・お父さんの手際の良さで、とても美味しいカレーができました。夜には綺麗に飛び交うホテル



も見ることが出来、大人の集いでは、涙を流しながら語り合うお母さんの姿がありました。1泊2日と短い時間でしたが、心休まるひと時となりました。

★★ 個人消息 ★★

<お誕生> おめでとうございます			
4月24日	西田勉さん(西神戸ランチ)	ご長男	雄飛さん
5月2日	松尾隆幸さん(北須磨文化センター)	ご長男	新平さん
<ご結婚> おめでとうございます			
4月26日	小林功士さん(西神戸ランチ)		
4月28日	田治杉子さん(本部事務局)		